

No.4 仙南たまねぎの環境に配慮した栽培方法による生産拡大

- 計画期間 令和 5～7 年度
- 対象者 J A みやぎ仙南たまねぎ部会 17 人
(その他たまねぎ生産者および新規作付希望者)

1 現状

- 課題：たまねぎの収量・品質の伸び悩み
- 対策：作型、病害虫防除、雑草対策など、共通の生産体系の確立と実践
- 目標：「収量・品質の向上」



2 活動内容

- (1) 病害虫雑草防除を中心とした栽培管理技術の習得支援および適期作業の実施指導
 - ▷ J A みやぎ仙南と連携した育苗・現地巡回や栽培講習会を実施した
- (2) リビングマルチを活用したグリーンな栽培体系の技術検証
 - ▷リビングマルチとしてたまねぎの間作に大麦を導入し、害虫であるネギアザミウマを抑制する効果を実証した
- (3) たまねぎ部会活動の活性化による営農意欲の向上および新規作付誘導支援
 - ▷「たまねぎ通信」の作成・発行（2回：たまねぎの適期管理について）
 - ▷「水田を活用した露地園芸品目拡大推進研修会」(R6.11)
 - 管内の生産者向けに、たまねぎ生産振興の活動状況を情報提供し、新規作付を呼び掛けた
 - ▷「先進地視察」(R6.12)
 - 涌谷町・美里町のたまねぎ直播栽培農家を部会員と訪問し、情報交換した

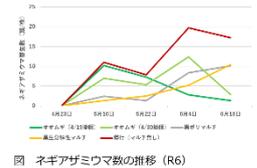


図 ネギアザミウマ数の推移 (R6)

3 目標に対する成果

【定性的目標】

- ▷病害虫雑草防除の徹底による収量・品質の向上が図られる。
 - 病害による収穫後の腐敗が減少し、収穫物に対する製品化率は向上した（下表）
 - 令和 6 年産の平均収量は令和 5 年産とほぼ同等であった
- ▷リビングマルチや生分解性マルチを活用したたまねぎ栽培への理解が図られる。
 - リビングマルチについて、害虫であるネギアザミウマの発生を 80%程度抑制する効果を確認した

	出荷量(t)	L 以上割合(%)	製品化率(%)	収量(t/10a)
R6 産	44.7	20.9	87.9	2.0
R5 産	78.4	38.7	73.0	2.2
前年比	57%	54%	120%	91%

【定量的数値目標】

目標単収 3.5t/10a 達成者割合 R6 目標 50%→R6 実績 0%(R5 実績 27%)

4 令和 7 年度の活動

- 収量・品質のさらなる向上に向け、現地巡回や講習会等の開催とあわせ、「たまねぎ通信」等による情報提供を継続する
- 球肥大期の少雨傾向に対応するため、茎葉生育期（3月～5月）に可能な限り生育量を確保するように栽培管理の徹底を図る
- グリーンな栽培体系として、リビングマルチによる害虫防除技術の普及を図る

